

第九十八回フォト句優秀作品（元年9月9日）



山百合は

そばかすの美女

楚々として（昌康）



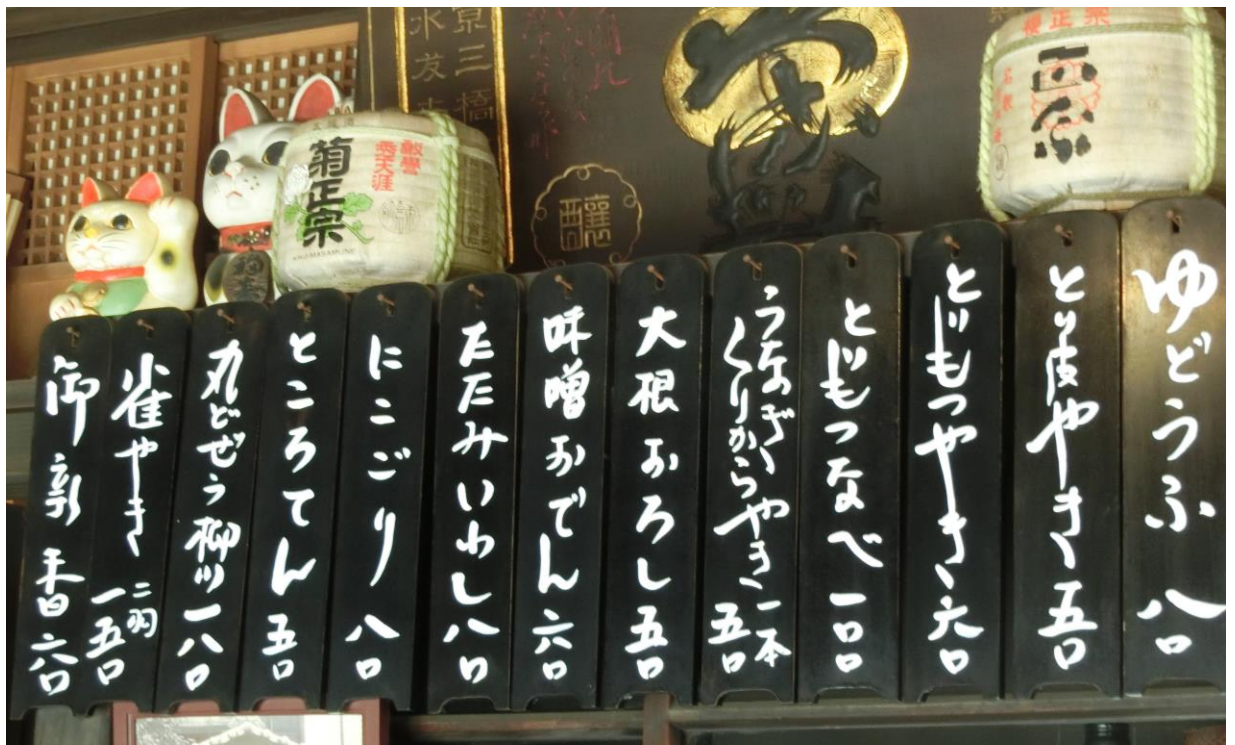
岸辺へには
子らを案ずる
母の顔（勝）



その昔
チヨコに群がる
わが姿(正二)



連日の
反日デモに
疲れ果て(又キヤ)



縄のれん品書き札に目をこすり(隆)

寸評：

1) 山百合は**そばかすの美女**そそとして 松田 昌康

山のせせらぎの音に誘われて咲く山百合。**そばかすの美女**とは巧みな表現だ。写真はやや平凡だが、この措辞に点が入った。

2) 岸边には子らを案ずる**母の顔** 清水 勝

ラフテイングに興ずる子供たち。冒険に胸を弾ませている一方、見守る岸边には心配そうな母親の顔が並んでいる。画面にはない周囲の状況が手にとるように把握できる説得力ある作品だ。

3) その昔チョコに群がるわが姿

矢澤 正二

餌に群がる泥沼の鯉をみて昔を思い出した。終戦後チョコレートが欲しくて進駐軍の兵士の周りに群がったものだ。泥沼をみてチョコレートを連想し、群がる鯉をみて戦後の子供たちを想ったセンスを買いたい。

4) 連日の反日デモに疲れ果て

中村 晃也

大風が吹いた翌日のヒマワリ畑を見てこの句を発想した。日の丸に模したプラカードを掲げた官製反日デモ。よくやるわい。

5) 縄のれん品書き札に目をこすり

池田 隆

小金井公園内にある明治の建物での取材。昭和初期の居酒屋のメニューと思われるが、「とりもつ鍋100円にたいし大根おろし50円はやや高いのでは？」などと郷愁を掻き立てられるのは齢のせいかな？



付け句

付け句：今月は安藤さんの出題。御ひいきの八王子芸者の写真です。

1) ご挨拶終え**ジーパン**に穿き直す 中村 晃也

ジーパンに穿き替えて次の職場に直行する健気な女性。

2) 三つ指に肢体の線が艶競う 安藤 晃二

画像どうりのまともな表現だが、報告句に終わっている。

3) 夏祭り**派遣会社**がフル稼働 大月 和彦

4) 顔見せに**パート**で主婦をかき集め 松田 昌康

5) 全員が**オカマ**だったら怖ろしい 中村 晃也

こんなことはないと思うが…。

以上